

京都大學文學部哲學科

卒業論文題目

昭和二十二年九月

哲學

高橋正一 保守的精神

——ヘーゲル歴史哲學の一考察——

佐藤三千雄 「デアニマ」について

井上庄七 カントに於ける倫理性の發展

海邊忠治 ヘーゲル絶對精神に對する一考察

西洋哲學史

菊池 靖 ハイデッガーに於ける形而上學的態度としての超越論的循環について

心理學

猪股佐登留 比較過程を媒介とせる知覺體制の分析

倫理學

島山和雄 シェーラーに於ける實質的價值倫理學の構

想

千田孝信 カントに於ける合目的性の問題

——目的論考察——

美學美術史

森 啓 Paul Cézanne

山本萬治郎 カント美學に關する一考察

——美的構想力論——

手塚唯聽 淨土教の美術

小山義美 映畫藝術論

教育學教授法

柴田良稔 デイルタイの教育學說

宗 教 學

佐々木美智生 カントに於ける惡の問題

志滿俊照 救 濟

社 會 學

小川 透 階級について

秋山敏夫 都市に於ける水平的移動性

千保一廣 近代社會の利益社會的特質

庄司宏一 テンニースに於ける共同社會の類型

庄司 裕 古代ローマに於ける家族構成要素

杉之原壽一 他我の領解

藤井正好 社會本質論

嵯峨時重 中世佗藝術の特質

廣海泰三 民族と文化

中野三郎 社會平等化の傾向

岩倉 守 都市に於ける族的集團の一形態

昭和二十三年三月

哲學

石田三郎 ベルグソンを中心とする時間論の考察

柴田和夫 カントに於ける理性

白井成道 プラトン前期對話篇に於けるイデア論の發

展

高山伊弘 ハイデッグ哲学に於ける超越に就て

西村純一郎 カントの時間論

根來清太郎 經驗

橋本峰雄 ヘーゲルに於ける二元性

幡新守也 調和的瞬間論序説

—第一次哲學體系としての—

南澤貞美 カントに於ける自然の問題

源了圓 ニイテエ哲學に於けるニヒリズムの考察

三輪正 ベルグソン哲學に於ける形而上學の問題

渡邊 莊 カントに於ける先驗哲學

印度哲學史

鳥越正道 印度古代に於ける密呪思想

支那哲學史

木南卓一 仁齋學の主張と宋學

竹岡八雄 先秦名家雜考

福島 昇 政治論より見たる韓非子の成立に就て

心理學

稻浦康稔 課題解決諸過程の構造に就て

藤澤堯夫 溯働禁止による領域研究

山田久喜 浮浪兒の道德意識に就て

倫理學

柏原與郎 スピノザの哲學體系に於ける人間の位置

木全徳雄 カントに於ける宗教の位置

柴田善守 Oliver Cromwellの倫理觀と彼の軍隊と政治に就て

岡 昌宏 カント倫理學に於ける最高善に就て

教育學教授法

笈田知義 フイヒテの宗教論に於ける愛の教育的考察

モハマッド・シャリフ 民主主義と教育

美學美術史

今井 清 カント美學の問題

—美的理念を中心として—

大原 親 「悲劇の誕生」におけるニイテエの藝術觀

關本 肇

美的感情の先驗論的構造
—カント美學研究—

宗 教 學

久木幸男

親鸞の人間

社 會 學

市場晴義

戰爭の社會的考察

恩智茂徳

マツキイーザアの國家觀

城戸崎彰

封鎖開放性より見た漁村

—北海道小砂子漁部落を中心に—

佐藤文男

我が國の農村に於ける生活の共同

林 治男

支那家族

森 祿郎

社會と人口

八木佐市

民族と言語

—文化共同體と言語共同體—

佛 教 學

梶山雄一

報身の哲學

河原林次郎

宗教の現世肯定

—シュライエルマツヘルク宗教論と

佛敎—

河野玄麿

宗教的信

湖海昌哉

眞如と生滅

佐々木龍寶

大日如來の性格

—眞言宗の本質—

染野正明

三性説の立場

瀧藤尊教

天台實相論序説

常盤義伸

名の虚妄性

—攝大乘論に就て—

前 目 次

聖アウグスチヌスにおける同心の問題
—序 論—
山 田 晶

中觀哲學の根本的立場(完) 文學士 長 尾 雅 人

リボーに於ける創造的：文學士 西 村 嘉 彦
想像力の分析(完)